Doc 2329

16

第百九十一頁

改革實施ノ結果トシテ事務的機構モ大變化ヲ蒙ツタ。

七月二十五日協和會ハ「滿洲帝國協和會」ト命名セラレタ、コレハ多大ノ意義ヲ有スル出來事デアル。

中央事務局ハ協和會中央本部ト改稱サレタ、中央事務局長「リユー」厚生大臣ニ代リテ井上中將ガ之ニ當リ、中央事務局次長平島ハ總務部長ニ轉任セシメラレタ。

本部員會議ハ廢止セラレタ。協和會中央本部委員會員會議ハ協和會ノ最高指導機關トナツタ、委員會員會議ノ議長ニハ協和會中央本部長ガナツタ、會議ヘノ委員ノ任命ハ協和會中央本部長ノ稟請ニヨリ協和會總裁之ヲ行フコトトナツタ。

前記會議ノ外協和會中央本部附屬トシテ各界ノ代表者ヨリ成ル評議委員會ヲ設置シタ、評議委員會ヘノ任命ハ協和會總裁若クハ協和會中央本部長之ヲ行ツタ。

協和會ノ事務的機構ノ改造ニ伴ヒ執行機關ノ名稱モ改變サレタ。

即チ省事務局ハ省本部ニ、事務局支部ハ部ニアリテハ部本部ニ、又市ニアリテハ市本部ト改稱サレタ、新京ニ於テハ首都本部ガ組織セラレタ、協和

會中央本部ハ改革後總務部、指導部、計畫部及檢査部ノ四部ニ分カルルコトヽナツタ。

前記改革ノ實現迄ニ協和會ノ活動ハ「ロシア」避難民ニモ擴張セラレ始メタ、協和會ノ事業ヲ指導スルタメ哈爾賓市内ニ特務部ガ設ケラレタ。

康德五年（一九三八年）ノ改革

康德五年（一九三八年）中協和會中央本部ノ事務的機關ノ改革行ハレ、右ハ協和會中央本部長補本將軍、其ノ次長「スン」氏及總務部長甘粕ニヨリテ實現セラレタ。

中央本部附屬トシテ中央本部部長幹部會及監査委員會員會ガ組織セラレタ。

協和會中央本部ハ總務部、計畫事務局、養成部、實現部ニヨリテ組織セラレタ。

總務部ニハ總務課、財務課、人事課及情報課ガ入ツテ居タ。

養成部ニ入ツテ居タノハ青年ノ養成事務ヲ取扱フ養成課、義勇奉公隊ノ事務ヲ取扱フ動員課、國防援助婦人會、宗教團體及社會的性質ノ事務ヲ取扱フ福祉課デアツタ。

實現部ハ實現課、組織課、大會課及協和會議員養成及準備課ヲ包含シテ居タ。

康德七年（一九四〇年）中實現部ハ改制セラレ指導部ト改稱セラレタ、協和會職員養成及準備課ハ廢止サレタ、同課ニ代リテ協和會職員養成及準備ノ特別講習所ガ設ケラレタ。

Doc 2329-B

康徳八年（一九四一年）ノ改革

康徳八年（一九四一年）ハ國際關係ノ大ニ險悪ナ年トシテ記念サレテ居タ。勃發シタ第二歐洲大戰ハ第二世界大戰ト化スル虞レガアツタ、ソノタメ滿洲帝國ハ有スル不慮ノ場合ニ備フルタメニ國防ノ強化ニソノ力ヲ集中スルノ必要ニ迫ラレタ。

滿洲帝國ガ發生スベキ虞ノアル困難ヲ立派ニ突破シ得ルタメ先決問題トシテ政府ト協和會ノ相互關係ヲ更ニ益々鞏固ナラシムル必要ガアツタ、コノ目的ヲ以テ大改革ヲ實行シタ、協和會職員ノ多數ハ行政機關ノ事務ニ轉ゼラレ、同所ニ於テ彼等ハ行政機關ノ活動ニ直接參加シテ行政ト協和會ノ一層密接ナル一致ヲ助ケル任務ヲ有シテ居タ。改革ノ結果トシテ協和會ノ常任職員ノ數ハ著シク減少シタ、彼等ニ代リテ行政機關ノ有實職員ガ協和會ノ事務ニ就カシメラレタガ彼等ハ協和會ノ者トシテ一層積極的ニ會務ニ從事スルコトヽナツタ。行政ト協和會間ノ連絡ヲ鞏固ナラシムル目的ニテ省長ハ協和會省本部長ニ任命セラレタ、ソノ次長タル省次長ハ省本部次長ニ任命サレタ、同様ノ措置ハ協和會都本部及市本部ノ指導關係ニ於テモ實施サレタ、コノ改革ニ依リ行政機關ノ指導者ノ手中ニ協和會事務ノ現地ニ於ケル指導モ集中セラレタ、

行政機關ノ指導者ノ役割ハ甚ダ増大シタ、コレト同時ニ協和會ノ事務ノ狀態ニ對スル彼等ノ責任モ増大シタ、何トナレバ右事務ノ發展如何ハ全ク彼等ノ新職責ニ對スル態度ト關聯ガアツタカラデアル、彼等トシテハ自己ノ新事務ニ對シ先ヅ以テ積極的ニ働キ且協和會ノ精神ニ依ルノ必要ガ生ジタノデアル、彼等ハ斯カル條件ニ依リテノミ協和會及政府ノ期待ニ副フコトガ出來タノデアル、若シ夫レコレ等新指導者ガ協和會ニ於ケル自己ノ職責ニ對シ單ニ官吏トシテ接スルコトニナツタトシタナラバ之ニヨリテ彼等ハ重大ナル過失ヲ犯シソノ結果ハ甚大ナル成行ヲ來シタデアラウ、斯カル現象ノ發生ヲ豫防スル目的デ協和會中央本部長三宅氏及關東軍司令官ハ一再ナラズ新任協和會省、縣、及市本部長ヲ訓戒シ斯カル過失ノ無カランコトヲ注意シタ

協和會中央本部機構改革ニ關シ新綱領ノ結果トシテ本部ハ總務部、指導部、養成部及檢査部ノ四部ニ分ケラル、コトニナツタコトヲ指摘スルノ必要ガアル、

總務部ニハ總務課、人事課、財務課ノ三課情報及宣傳事務室ガ入ツタ、

指導部ニハ大會組織課、都市課、農村課及特別課ガ入ツタ、

養成部ニハ青年團体課、義勇奉公隊課及動員課ガ包マレテ居タ。

検査部ニハ從來ノ四課ガ入ツテ居タ

監査委員會室ハ從前ノ基礎ニ於テ執務スルコト、ナツテ居ツタ

協和會中央本部委員、會員會議ノ状態ニツイテ多大ノ變更ガ行ハレタ

右會議ノ意義ハ同會議ガ協和會ノ最高指導機關トナツタ以來特ニ増大シタ、ソノタメ本會議ノ事務ヲ強化スルタメソノ委員ノ一部ヲ委員會ノ常任委員トシテ承認スルコトヲ認メタ、常任委員全部ヲ以テ委員會幹部會ヲ組織シ幹部會ハソノ事務ノタメ月二回會合スルコト、シタ、コノ會議ニ於テ豫メ問題ヲ研究シ次テ委員會員會議ノ審議ニ移サレルノデアル、コノ委員會議ニ同様月二回開催サレルノデアル、

改革後協和會内ノ善良ニシテ且積極的ナル職員ノ多數ノ者ハ行政機關ノ事務ニ廻ツタ、コレハ政府ト協和會間ノ連絡ヲ固メル意味ニ於テ確實ナル結果ヲ得タ然シ協和會ガ大東亞戰爭及ソ滿戰爭ノ發生ト共ニ特ニ責任アルモノトナツタ時ノ最近ノ一ケ年間ニ於ケル同會ノ過去ノ活動ヲ評價シテ見ルト我々トシテハ實際ノ仕事ノ關係ニ於テ

（以下次頁ニ続ク）

Doc 2329 - B

第百九十三頁

建国ニ際シ採決サレタル協和会ノ会員ニ関スル会則

協和会設立ニ当リ協和会会員ニ関スル会則第五項ハ、満洲帝国ノ各市民ハ会則規定ノ手続ニ依リ協和会ニ入会スルノ権利ヲ有スル、ト述ベテ居ル。

同会則第六項ハ協和会ノ会員ヲ別ケテ正会員、会員候補及同情者ノ三種トナストシテ居ル。会則ニハ協和会ノ命題及目的ニ賛成ノ者ハ何人ニテモ正会員三名以上ノ紹介ヲ得テ協和会会員ニ加入ノ申込ヲ為スコトヲ得ルト規定シテ居ル、右ノ如キモノハ協和会本部総裁ノ相当裁決ヲ経タル後同情者ノ中ニ加入セシメラレタルモノト考ヘルコトガ出来タ。

協和会ノ第二種ノ会員ニ移ルタメニハ一ケ年ノ養成及準備訓習ヲ経ルノ必要ガアツタ、ソシテソノ後ニ於テノミ正会員ノ部類ニ移ルコトガ許サレタ、前記会員入会ノ方法ハ当時協和会トシテハソノ会員ニ優良ニシテ活動的ナル分子ヲ引キ附ケント努力シテ居リソノ会員ノ数ニ関シテヨリモソノ素質ニ関シテ多大ノ注意ヲ払ツタトユフコトヲ示スモノデアル。

康徳四年（一九三七年）採決ノ協和会会員ニ関スル会則

テ中央部ニ協和會ノ新ナル部ヲ開設シ及協和會中央本部ヲ組織スルノ機會ニ於テ閲兵式及儀禮ガ行ハレタ。

協和會ノ各部ノ職員、新京ニ於ケル全滿大會出席者、軍部代表者及政府機關三十九個所ノ代表者總計三万人余ガ參加シタ。閲兵ヲ行ツタ者ハ關東軍司令官植田將軍、軍參謀長板垣將軍、濱田提督、張景惠總理大臣及松岡滿鐵社長デアツタ。閲兵式ノ席上協和會ニ對スル勅語及關東軍司令官ノ指令ガ讀上ゲラレタ。斯クテ協和會第三回全滿大會ハ極メテ盛大裡ニ行ハレタ。

第二百二頁

協和會第四回全滿大會、康德四年（一九三七年）

康德四年ニ於ケル協和會全滿大會ハ九月十一日即チ從來ノ大會ニ比シ多少遲レテ帝都ノ國務院ノ建物內ニ於テ開カレタ。ソシテ九月ノ十一日ヨリ十五日迄五日間續行セラレタ。張氏議長トナリ副議長ニハ渡邊及「シ一」ノ兩氏コレニ當リコノ兩人ハ本大會ニ出席シタ代表委員百七十名ノ中ヨリ出テタルモノデアル。大會開會ノ第一日ニハ皇帝陛下臨席セラレ、大會ノ全代表委員及協和會中央本部員ハ陛下ニ謁見ヲ賜ハツタ。次テ植田將軍及總理大臣張景惠元帥主催ノ代表委員ニ對スル宴會ガアツタ。

第百九十四頁

改正會則第一項ニハ年齢二十歳ニ達シ身体強健ニシテ協和會ノ事業ニ盡力スル用意アルコトヲ示ス者ハ何人モソノ會員トナルノ權利ヲ有スルトアル。

コノ外本項ハ滿洲帝國ニ居住セズ又ソノ住民ニ屬セザル者ト雖協和思想ニ賛成ナルニ於テハ之ニ協和會會員ニ加入スルノ權利ヲ與ヘタ。

右改正會則第二項ニヨリテ協和會入會ノ方法ガ變更セラレタ。即チ、各希望者ハ協和會支部長ヲ經由シテ地方ノ本部ヘ宛テ申込書ヲ提出シ該本部長ヨリ許可ヲ受クルコトニナツテ居タ。

第三項ニハ協和會員總テニ對スル會費支拂ノ義務ヲ規定シタモノテアツタ。

第百九十七頁

關東軍司令官植田將軍ノ命令ニハ協和會ハ住民ノ間ニ國策ヲ實行スルノ指導機關タルコトヲ使命トスルモノデアル、トアル。右ノ外協和會ハ國策ノ遂行ニ當リテ住民間ニ平穏ヲ保持スル様行動スルノ義務ヲ負ツテ居ル。

第二百一頁

協和會第三回全聯大會（一九三六年）

同ジク七月二十五日新京「ダー・トウン」廣場ニ於

25　　　　Doc 2329-13

第二百五頁

協和會第八回全滿大會

康德八年（一九四一年）

大會ノ特質ハ議事問題ノ内容ニモ反映シ、問題ハ特ニ重要ナル意義及建設的性質ヲ帶ビテ居リ且目下ノ政治的時期ノ大事變ト密接ニ關係ヲ有シテ居タ。コレ等問題トナツテ居タノハ、供給問題ノ調節、勞働問題、協和會及ソノ國家憲法ニ於ケル役割ト立場デアツタ。

總理大臣兼協和會總裁張景惠ハ大會開會ノ席上述ベタル演說ノ中デ、現在ノ歷史的時期ニ於ケル滿洲帝國ノ最重要使命ハ有ユル可能ノ力及方法ヲ以テ國家ノ防衛能力ヲ急速設定シ及鞏固ニコレヲ組織スルノ任務デアルト正確ニ示シテ居ル。

武部國務院總務廳長ハ彼トシテソノ演說中ニ於テ
第二百〇六頁
協和會ノ全會員ニ向ヒ國家及政府ニ對シテ援助スル爲ノ全努力ヲ盡スベキデアルト呼ヒカケテ居タノデアル。尚武部氏ハ大會ニ對シテ各種ノ國家的措置、即チ工業發展五ケ年計畫ニ就テ、國内供給ノ調節計畫ニ就テ、稅ノ引上ゲニ就テ、農事經營生產物ノ收穫ニ就テ、勞働問題ノ解決ニ就テ、國防ニ就テ詳細ナル說明ヲ提出シタ。

Doc 2329-13

27

協和青少年事務中央監察局

協和青少年事務中央監察局ノ公式設置ハ康徳八年（一九四一年）四月一日新京ニ於テ行ハレタ。本局ノ高級指導者トシテ各自ノ本職ト兼務的ニ次ノ如ク任命セラレタ。即チ中央監察局總監トシテ協和會中央本部長三宅將軍、ソノ副總監トシテ國民福祉大臣「グツシヤン」氏及在滿日本大使館教育部長岩松氏ガ任命セラレタ。

特ニ重要ナル意義ノアツタノハ岩松氏ガ副總監ノ職ニ任命セラレタコトデアル。右ハ滿洲帝國在住ノ日本青少年間ニ國民ノ兄弟的親愛ノ主義ヲ廣メントスル協和會ノ行動ガ強化セル事ヲ印シ附ケルモノデアル。

（以下次頁ニ續ク）

A-OC-2327-B

第二百十二頁

協和會中央本部ハ青少年指導ノ新機關ノ成功ヲ確保スルタメ康徳八年（一九四一年）四月一日協和會ノ各本部ノ職員六百名ヲ新ニ設置セラレタル青少年團監察機關ノ方面ニ轉任セシムルコトヲ發表シタ。

青部ニ於ケル政治ノ圓滑ナル實現ヲ期スル目的ヲ以テ四月十三日國家中央機關指導者ノ特別會議開催セラレ、居上實施サルベキ政策ノ意義ニ對シ又青少年運動發展ノ事業ト關聯アル將來ノ工作ニ對シテ統一セル意見ガ決定シタノデアツタ

右會議ノ後二日間ニ亘リ國内ノ各省ヨリ召集セラレタル新任監察局監察官ノ大會ガ行ハレタ、本大會ノ會議ニ於テ政治ニ關聯アル事務的問題並康徳八年（一九四一年）度事業基本計畫ガ審議セラレタ。

監察官大會ニ依リテ採決サレタル計畫ハ根本ニ於テ監察局ニ依ル指導確定ノ必要及青少年事業ト關聯アル問題ニ於テ國家機關ト一層大ナル連絡及統一ヲ設定スルノ必要ニ歸結シテ居タ、中央監察局ノ成立ニ至ル迄ハ青少年基本機關ハ學校附屬ノ少年團及青年團ノ機關デアツタ、監察官大會ニ於テハ區團體制度ニ移リ、コレ等團體ニ學生ニアラザル青少年ヲ加入セシムルコトトシ依リテ以テ青少

29

Doc 2324-10

年団体ノ事務ヲ青少年ノ有ユル層ニ拡張シソシテ更ニコレ等団体ノ行動ヲ一層強化セシムルコトニ決定シタノデアツタ、青少年団部隊ノ総数ヲ康徳八年（一九四一年）三月一日現在存シテヰタ三千七百三十部隊六十六万七千名ニ比シテ五千七百二十部隊八十五万六千名ニ増加スルコトニ決定セラレタ。

第二百十三頁

青少年運動ノ真相ハ、総テノ成功、欠陥及本運動ニ課セラレタル任務ヲ総計シテ見テ、協和会中央本部及協和青少年事務中央監察局ノ深甚ナル注意ヲ惹イテ居ル、青少年運動ノ欠陥ヲ除キ且右運動ヲ強化セシムルタメ康徳九年（一九四二年）中協和会及統監部ハ基本計画ヲ建テ、之ヲ実行シテ青少年団体ヲシテ必要ナル高度ニ達セシメ且之ラヲシテ国家ノ基本要素タラシムベシトシタ、右計画ハ先以テ青少年ヲ現在ノ気分ニ應シテ養成ネルノ必要ヲ認メテヰル、全青少年ガ目下行ハレテヰル解放戦ノ意義ト目的トヲ完全ニ了解シ、ソシテ亜細亜民族ノ進路上ニ遭遇スベキ有ユル障碍ヲ突破スルタメニ何時ニテモ自己ノ刀ヲ犠牲ニ供スルノ用意ヲ十分ニ持ツテ居ルヤウニスルコトガ必要デアル。

DOC 2329-B

協和青少年「ロシア」避難民團体

康德六年（一九三九年）三月一日、全國ニ亘リ青少年ノ國家的團体ヲ組織スルト同時ニ、コレト類似ノモノヲ總テノ「ロシア」避難民ノ下級及中及中級學校ニ附屬シテ組織シタ、「ロシア」避難民青少年ノ間ニ於ケル國家的團体ノ活動集中ノ重要地點ハ哈爾賓市ト後興安地方ノ地域デアル。

協和青少年ノ事務管理ノ全國的改革行ハレタル結果青少年事務中央監察局ノ設置ヲ見タノデアルガ、コレト關聯シテ「ロシア」人團体ニ對スル指導モ同樣ニ變更セラレタノデアル、避難民中央事務局長騎兵將軍「ベー・アー・キスリーツイン」ハ哈爾賓監察局ノ副監察官トナツタ青少年團「ロシア」團体ノ行動ニ對スル直接ノ指導ハ之之ガ爲メ特ニ設置セラレタル哈爾賓監察局第四部ニ集中セラレテアツタ、ソノ部長ニハ哈爾賓市役所教育部長「ペー・イー・グリバノフスキー」任命セラレソノ次長ニハ協和會本部特別部長加藤ガ任命セラレタ

避難民事務局、協和會本部及教育部ノ指導者ガ參加シタル結果「ロシア」團体ノ行動ヲ指導ス

ル問題ニ於テハ直接少年ノ養成及準備ニ協和アル右指導機關ガ完全ニ一致シタノデアル、協和青少年哈爾賓事務局ハ、事業上ノ準備トユウ事務ハ大ナル養成的意義ヲ有スルモノデアルトユウコトヲ考慮ニ入レ、各種國家機關ト協同シテ団体ノ事業「プログラム」ノ中ニ軍事教育ヲ含メタノデアッタ。

「ロシア」避難民青少年間ニ於ケル協和會ノ養成工作ハ青年學生ノミニ局限セラレテ居ラナイ。右工作ハ學生タラザル青少年ニモ擴張セラレテ居ル、斯社ノ「ロシア」青少年ニ對スル工作ハ「ロシア」避難民青少年養成用協和會講習所ニ於テ行ハレテ居ル

「ロシア」避難民青少年用ノ協和會講習所ハ最初康徳五年（一九三八年）中三河地方ニ設ケラレ、次デ七年（一九四〇年）ニナリテ同様ノ講習所ガ哈爾賓及海拉爾ニ設ケラレ、ソシテ八年（一九四一年）ニナリテ「ムダンジタン」市ニ設ケラレ、協和會講習所ハ次ノ目的ヲ有スル即講習生ニ相當ノ養成ト準備トヲ施スコトニヨリ東亞民族ノ指導者トシテノ國家目的ノ指標日本ト滿洲ノ精神及平和的提携原則ノ為メ自己ヲ犠牲ニスル精神ヲ固メルコト、又青少年ヲ養

Doc 2329-13

成スルコトニヨリテ實際上ノ社會生活ノタメ必要ナル準備ヲ與ヘ、國民皆兵トシテ必要ナル高度ノ精神的竝肉体的素質ヲ發達セシメ、又「ロシア」民族主義ノ擁衛「ロシア」邊境民全体トシテ有スル任務ヲ認識シテコレニ良好ナル準備ヲ愛國ナラシメ且認識ヲ生ヲ以テ一般國民群衆ニ積極的參加ヲナスコトヲ出來ルヤウナ信頼シ得ル人材ヲ養成スルコトヲ目的トスル

青少年運動ト非常時

青少年團体ノ活動數ケ年間ニ於テ青少年運動ハ全國ニ亘リテ多大ノ發展ヲシメ、ソシテ國家生活ノ有力ナル要素トナツタ。青少年團体ハソノ組織ノ中ニ百萬人以上ノモノヲ統合シテ居ル、コノタメ青少年團体ノ創造力ハ向上シタ、即チ特ニ昨年以來彼等ニ對シ、將來ニ於ケル國家生活ノ完成及國家ノ建設ニ振リ向ケラレタル實際的活動ニ積極的ニ參加シ得ル可能性ヲ與ヘタノデアル。我國家ガ体驗シツツアル非常時ハ青少年團体ニ對シテ責任アル實際的任務ヲ課シテ居ルソノ主ナル内容ハ現時我青・少年ハ成年タル人民ト均シク戰線ニ進ミソシテ我國家ノ前ニ將又

33

Doc 2329-B

東亜全民族ノ前ニ存スル有ユル障碍ヲ突破シナケレバナラナイトユウコトニ歸結シテ居ル、大東亜戰爭ヲ「アングロ、サクソン」ニ對スル勝利ノ結末ニ到達セシメルコト及大東亜民族ノ共榮圏ヲ建設スルコトハ總テノ力ガコノ聖ナル事業ニ集中セラルヘキコトヲ要求シテ居ルノデアル、政府ハ滿洲帝國ノ面前ニ顯ハレスル任務ノ重要性ヲ考慮シ、目下コノ生活ニ關係アル任務ノ解決ニ處スヘキ政策ヲ講シツツアル、政府ハ農産物ノ増産及地方産業ノ發展ニ依ル國内天然富源ノ採掘増進ヲ確保シ並ニ國ノ北邊ニ於ケル防衛能力ヲ鞏固ナラシムルコトニ努力中デアル政府ハ國策ノ圓滿ナル實現ヲ期シ、非常狀態ノ全期間ヲ通ジ滿洲帝國ニ於ケル總体勞働賦役ヲ實施スルノ決定ヲナシタ。

Doc 2329-B

即チ協和義勇奉公隊設置案ガ完全ニ作成セラレタ、一九三八年七月十四日義勇奉公隊組織ニ関スル国務院令ノ発布ヲ見、コレニヨリテ義勇奉公隊ハ協和青少年運動ト親睦ノ関係ニ置カレ、ソシテ人民養成ノ一般計画ニ含マル、コトニナツタ、其後一九四〇年十二月二十六日政府代表者ト協和会指導者トノ合議ニ於テ国体準備時代ハ終了シタルモノト認メ得ル旨及ソノタメ協和義勇奉公隊ハ人民ノ国防ノ基本的団体トナルノ力アルモノト決定セラレタ、義勇奉公隊員トシテハ二十才乃至四十才ノ年齢ガ最良ト認メル義勇奉公隊ハ全国民動員計画ヲ完成スル

35

Doc 2329-B

第二百十五頁

武部國務院總務長官ハ協和會全聯大會ノ席上行ヒタル「第一線方針ニ關スル報告ノ中ニ於テ前記三基本任務ニ言及シテ曰ク、「政府ノ意見ニ依レバコレ等任務ノ圓滿ナル解決ハ、青少年ヲシテ勞働奉仕ヲ行ハシメ彼等ノ國家ニ對スル積極的勞務奉仕ヲ得ルコトニセネバナラヌト、

勤勞服役ニ從事セシメラルベキ者ノ作業成功ニツイテノ問題ニ移リ、武部氏ハ次ノヤウニ言ツタ、「右成功ハ一ニ人ノ如何ニ拘ハルノデアル、即チ勤勞隊ノ作業ニ關聯アル任務ヲ實際上實現スルタメニ召集サレレタ人々ノ熱狂セル精神ニ拘ハリ、又コレ等勤勞隊ニ加入スル人々ノ如何ニ拘ハルノデアル、若シ、總テノ指導者及勤勞隊ノ職員ガ國家ニ對スルソノ奉仕ノ重要性ヲ自覺スルニ於テハ當然青少年勤勞隊ハ國家建設事業ニ貢獻スルコトガ出來、ソシテ「國家ヲシテ現在ノ非常時ニ發生シタ總テノ障碍ヲ成功裡ニ突破スルヤウ援ケルコトガ出來ルノデアル

協和義勇奉公隊

一九三八年四月二十三日首都新京ニ於テ青少年及成年ノ人民ヲ隊員トシテ包有スベキ人民動員團体ノ設立問題ニ關シ[illegible]、政府及協和會ノ代表者ノ會議ヲ開催シタ、其後行ハレタル會議ニ於テ人民國防團体、

Doc 2329-B

避難民事務局ノ設置

一九三二年ヨリ始マリ「ロシア」在留民ノ居ル総テノ土地、就中哈爾濱ニ於テ多数ノ「ロシア」避難民団体ガ発生スルヤウニナツタ、

満洲帝国政府ノ康徳元年（一九三四年）十二月二十八日附命令ニ依リ、「ロシア」避難民ニ関シテ一定ノ行政事務ヲ分与サレタル特別機関ガ設ケラレテアツタ、

コノ機関ハ「在満洲帝国「ロシア」避難民事務局」ナル名称ヲ受ケ、ソシテコレニ政府ヨリ左記ノ任務ガ課セラレテ居タ、

一、満洲帝国内在住「ロシア」避難民ノ物質上及精神上ノ状態ヲ鞏固ナラシムベク努力スルコト、

二、避難民関係ノ総テノ問題ニツキ特務機関ト交渉スルコト

三、避難民問題ニツキ関係官憲機関ニ援助ヲ供スルコト

第二百九十四頁

事務局開設ノ際ハ総裁ノ地位ハ陸軍中将「ウエー・ウエー、ルイチコフ」ガ之ヲ得タ、事務局ハ当初西部ヨリ成ツテ居タ、即チ(一)第一部、避難民ノ援事務管上ノ施設並ニコレ等避難民ノ政府援護区ヘノ移住ニ関スル事務ヲ取扱フ、本部長ニハ「ア

37

Doc 2329-B

ー、ペー、バクシエーフ」中将、同中将ハ副総裁テアル、ガ就任シテ居ル、(二)第二情報部「カー、ウエー、ロザエフスキー」乙ニ長テアル(三)第三行政部、「エヌ、エル、グラッセ」乙ニ長テアル及ビ(四)第四経済財務部、長トシテ「エム、エヌ、ゴルテーエフ」任命セラル、コノ外事務局ニハ官房長「ヤー、ヤー、スミルノフ」大佐及書記技師「エム、アー、マトコフスキー」ガアツタ、

事務局総裁附諮問機関トシテ八名アル避難民活動家ガ参加シテ居ル旨記ガ設置セラレテアツタ、

既ニ事務局ノ業務一ケ年半ニシテソノ総裁「ルイチコフ」将軍ハ新聞ニ対スル言明ノ中デ、事務局トシテハ避難民ノ福利上及経済上ノ状態ヲ固ムル万向ニ於テ多クノモノヲ達成シ得タシ、コノ事務ニ於テ事務局ハ満洲国及日本ノ官憲並一般各方面ヨリ多大ノ援助ヲ受ケタト指摘シタ、右ノ短期間ニ事務局ノ取ル部ニ於テハ著シイ仕事ガ實施セラレタノデアツタ、

第三百頁

事務局ト協和會

「ロシア」避難民中央事務局ハ「ロシア」避難民ノ利益ヲ代表シテ、活キ帯日ノ建設事業ニ自ラ寄與シ、ソシテ国内在住ノ総テノ民族ノ援助ノ恩恵ヲ督筑シテ居ル、避難民ノコノ国家政治的突進ノ

Doc 2329-B

外面的現レハ即チ事務局ト全満的団体タル協和会トノ間ニ存スル密接ナル連絡デアル、特ニ協和会濱江本部特別部長加藤ハ同時ニ中央事務局ノ顧問トモナツテ居ル、中央事務局長「キスクーチン」将軍ハ協和会高等訓習所ノ所長デアル一般ニ多クノ問題ニツイテ中央事務局ハ協和会ト密接ニ接觸シテ執務シテ居ル、

第三百一頁

特ニ事務局及避難民全般ニトリテ貴重ナルコトハ在哈爾濱日本帝国特務機関長柳田将軍ノ態度デアツテ、同将軍ハ総テノ問題ニ於テ「ロシア」避難民ノ真ノ親友デアリ又高キ保護者デアル、

（終）